



羽田ミヤコタナゴ通信

通信

ミヤコタナゴは日本魚類学の父とされる田中茂穂博士によって、東京都文京区にある小石川植物園の池で発見されたものを基に、明治末期の1909年に新種として世の中に報告されました。当時は関東地方に広く分布する魚とされ、希少な魚ではなかったようです。それからわずか100年あまりたった現在、最初の発見地である東京都のみならず、多くの場所でミヤコタナゴはひっそりと姿を消し、栃木県と千葉県のごく限られた場所のみでしか生息が確認されない、とても珍しい魚になってしまいました。

今となってはなぜ各地でミヤコタナゴがいなくなってしまったのか、その理由を明確に知ることはできませんが、1950年代～70年代の高度経済成長期以降に各地でいなくなっていることから、自然環境の開発による変化が原因と考えられています。別な言い方をすれば、「ミヤコタナゴがすむ場所は自然が豊か」とも言えます。羽田地区では、2001年までミヤコタナゴの姿が見られましたが、その後確認されず、現在は試験放流したものがいるのみです。

一度は姿を消したミヤコタナゴが、世代交代をして安定的にすみ続ける鍵は豊かな自然にあります。我々人間の眼には見えない水質や水温、流量、水中の懸濁物、他の生物など、実に多くの要因が複雑に絡み合い豊かな自然は成り立っています。一朝一夕に解決することではありませんが、野生のミヤコタナゴが見られなくなり16年。今ならまだミヤコタナゴがすめる豊かな自然を取り戻すことができると信じています。

(栃木県なかがわ水遊園 展示担当グループリーダー 渡辺敬晴)

トピック

- 1 マツカサガイの稚貝を生息水路に放流しました
- 2 生き物観察会が行われました
- 3 羽田の天祭が執り行われました
- 4 羽田地域教室
- 5 第1回ミヤコタナゴ保護増殖検討会が実施されました
- 6 今後の活動計画について



生き物観察会の意気込み
～ 狙いをさだめて…何見てる? ～

1 マツカサガイの稚貝を生息水路に放流しました

羽田生息地にマツカサガイの稚貝を定着させ、生息数を増やすため、平成29年6月に稚貝の放流を行いました。放流した稚貝は、水産試験場内の水槽において同水系産のマツカサガイから得られた幼生をヨシノボリに人為的に寄生させ、約2～3週間後に離脱させることで作出しました(離脱した稚貝 写真1)。稚貝は大きさが0.2mm程度と非常に小さく、泥の溜まった場所では呼吸ができず、生きていけません。

そこで、水路の底が細礫で泥が溜まりにくく流れのある水路最上流端から15mの範囲に9,446個体(放流場所① 写真2)、流程97.5mから120mの範囲に9,616個体(放流場所② 写真3)、合計19,062個体(推定数)の稚貝を放流しました。

稚貝の定着や成長を確認するため、来年3月に生息状況調査を実施する予定です。

(栃木県水産試験場 綱川 孝俊)



写真1 離脱した稚貝



写真2 放流場所①



写真3 放流場所②

2 生き物観察会が行われました

8月20日(日)に、羽田環境保全会による生き物観察会が開催されました。観察会は羽田沼より流れ出る水路(通称:地獄堀)約100mの範囲内で実施され、その範囲内で確認される魚や水生昆虫、両生類など網を用いて捕獲し、捕獲した生き物の種ごとに分類し、捕獲数を数えました。

結果として17種類の生き物を観察することができました。特筆すべき事項として、今回の調査では、ドブガイが2個体確認されました。今までこの水路でドブガイが確認されることはありませんでした。このドブガイはどこから来たのでしょうか。皆さんはどこから来たと思いますか。観察された生き物の一部を写真にて紹介します。

また観察会に合わせて、6月9日(金)に試験放流を行ったミヤコタナゴの生息状況を確認するため、羽田ミヤコタナゴ保存会の協力を得て、子ども達がセルビン調査にも挑戦しました。セルビンの設置個所はこれまでのセルビン調査結果より、ミヤコタナゴが比較的確認できる場所に設置しました。調査の結果、3匹のミヤコタナゴを確認することができました。1匹は平成28年に試験放流された個体でした。

この観察会は平成27年から始まり、今年で3年目となり、3年連続参加した子ども達もいます。毎年新たな発見があり、今年は何が発見されるか、観察会開始前から参加する子ども達は期待に胸を膨らませておりました。そのおかげか、今年もドブガイの確認など新たな発見がありました。子ども達の記憶力は素晴らしいもので、一昨年、昨年の発見も覚えておりました。今後も子ども達により、新たな発見が続くものと期待します。



観察会の様子



確認されたミヤコタナゴ



ドブガイ



メダカ



タガメ

3 羽田の天祭が執り行われました

7月22日(土)、23日(日)、羽田地区の八龍神社に継承されている天祭（大田原市指定無形民俗文化財 昭和53年9月7日指定）が、雨天の中執り行われました。

羽田の天祭は、江戸時代後期に八龍神社の参拝口にある十王堂で、行者が天念仏を奏したことに始まったと伝えられており、大正11年（1922年）に現在の形に整えられ、毎年7月の八龍神社の祭礼に奉納されています。

祭礼の日には、早朝から氏子たちが集まり、まず、長さ13.5mの主柱を立てるために地面を約1m掘り下げ、そこに4本の主柱を立ち上げ、さらに支えの補助柱16本を取り付けて囃子方(はやしかた)棚、行棚の2段の棚を設けます。組み上げまで半日かかります(写真)。

祭礼は、夕方6時から、八龍神社の祭神への報告祭ののち、太鼓、笛(CD)により楽(がく)を奉納しました。奉納される楽は、14座が伝えられていますが、現在は、氏子の数が減ってきて、すべては演奏できなくなっているとのことですが、今後も絶えることなく継承して行ってほしいものです。

なお、来年3月25日(日)同神社において、太々神楽の奉納が予定されています。大田原市教育委員会による記録保存のための映像撮影も企画されていますので、多数の地域の皆様のご協力をお願いいたします。



(大田原市教育委員会事務局 文化振興課 文化財係 中木 太) 組み上がった天棚(てんたな)

4 羽田地域教室

ミヤコタナゴの再導入に向けた取り組みが徐々に発信されることにより、教育現場からも関心が集まり、数年前から宇都宮大学の実習の場としても活用されるようになってきております。学校では教えられないことを地域で教えることができる教室として、活用されております。今年羽田で行われた地域教室について紹介します。

○日本生物教育会第72回全国大会の現地研修会場になりました

8月2日(水)から5日(金)にかけて宇都宮市で日本生物教育会第72回全国大会が開催され、全国から高校で理科を教える先生方が集まり、研究発表やシンポジウムが開催されました。そのプログラムの一環として、現地研修があり羽田ミヤコタナゴ生息地保護区がコースの一部に組み込まれました。

8月4日(金)15時40分から1時間程度、40名程度の先生方が羽田ミヤコタナゴ生息地保護区に集い、保護区の現状や今までの取り組み事項、課題、今後の展望などについて、日光国立公園那須管理官事務所の齋藤管理官や宇都宮大学教育学部の上田教授の案内・解説に熱心に耳を傾けておりました。

この現地視察の前に、栃木県水産試験場にてミヤコタナゴの系統保存について施設等を見学され、室内での取り組みについて理解を深めた後、羽田において自然界での取り組みについて学ばれました。普段の生活の中では目にすることのない現実を確認いただき、このことを将来を担う高校生の授業に生かしていただけるものと期待しています。



○「ひらめき☆ときめき サイエンス」講座の現地研修会場にもなりました。

9月9日(土)、16日(土)に、宇都宮大学教育学部上田教授が、これから生物分野等へ進学を考えている高校生を対象に、「天然記念物ミヤコタナゴの生命を育む里地里山を旅しよう」という講座を開催しました。講座の目的は「ミヤコタナゴの生命を育ててきた里地里山について理解し、自然と人間の共生の在り方について共に考えること」とし、大学での講義や現地で保存会の方々との意見交換を行い、受講者は多くのことを学んでおりました。現場から学ぶ姿勢が、多くのひらめきや可能性を飛躍させるものと期待しています。

5 第1回ミヤコタナゴ保護増殖検討会が実施されました

本年度から、ミヤコタナゴが生息している栃木県、千葉県の関係者が集まり、種(しゅ)としてのミヤコタナゴの保全を目的とした検討会が栃木県、千葉県それぞれの生息地で行われることとなりました。

第1回ミヤコタナゴ保護増殖検討会は、9月7日(木)に栃木県大田原市内の生息地2箇所(羽田、滝岡)で、生息環境、保護活動、今までの取り組み事項等について、現地視察や保存会の方々からの聞き取りを行った後、栃木県水産試験場で検討会が開催されました。

検討会については、ミヤコタナゴの生息地情報等が公開されていない地域もあることから非公開で行われ、それぞれの立場の方々、今後のミヤコタナゴ保護について熱心に検討されておりました。検討会終了後、栃木県水産試験場内で系統保存されているミヤコタナゴの状況を視察し、意見交換等を行い終了となりました。

検討会の中で、委員の方から「羽田で繁殖しているドブガイにはミヤコタナゴは産卵しないと室内試験結果が示されているが、屋外(自然界)では本当に産卵しないのか確認する必要がある。」との意見をいただきました。室内試験は、平成27年、28年に栃木県なかがわ水遊園の水槽内で、3個体のドブガイを用いてミヤコタナゴが産卵するか否かを確認しましたが、水槽内では産卵が確認されることはなかったという結果を受けての指摘事項でした。羽田の水路で近年確認されるようになったドブガイへの対応は、今後も協議会で検討していく予定です。

第2回ミヤコタナゴ保護増殖検討会は、来年の2月に千葉県で開催する予定です。



羽田生息地保護区視察状況



滝岡ミヤコタナゴ保護地視察状況



検討会の様子(開始前)



意見交換、系統保存状況視察

6 今後の活動計画について

○ ミヤコタナゴ再導入に向けた目標について(中間報告)

ミヤコタナゴ再導入に向けた時期の設定、実施事項の抽出、今までの実施事項と評価を整理し、再導入に向けた取り組みを加速させます。

○ 生息環境の整備

例年、非かんがい期に実施していますミヤコタナゴ生息水路やその周辺環境整備を行います。実施内容については、地元関係者と協議し実施していきます。

○ ミヤコタナゴの生息調査

定期的実施しているセルピン調査を実施します。実施時期は昨年同様2月下旬～3月上旬を予定しています。

○ 稚貝導入試験の追跡調査

6月に生息水路内へ稚貝を導入しましたが、導入した稚貝が定着しているのか否か、6月に確認された稚貝や幼貝はその後どのようになっているかを把握するため、昨年同様2月下旬～3月上旬にかけ調査を実施します。

羽田小学校の児童の皆さんの眼力はすごいものがありますので、小学校の協力をいただきながら進めていきたいと考えています。

ご協力よろしく申し上げます。

問い合わせ先：大田原市教育委員会事務局文化振興課文化財係
TEL 0287-98-3768
FAX 0287-98-7124
E-mail bunka@city.ohtawara.tochigi.jp